



P II - ⑤

# 心の動きに共感しありのままを受け止める ～106歳のA様らしい生活の為に～

徳島県

医療法人 凌雲会 グループホーム親の家  
介護福祉士 濱田 広美

## 親の家基本方針

入居者は介護を受ける人ではなく  
**生活の主役**である。  
心の動きに共感し**ありのまま**を  
受け止める。

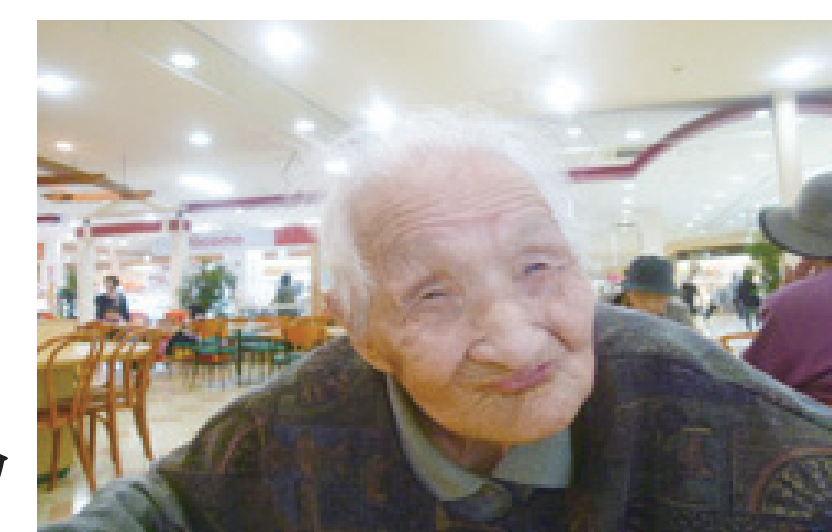
## ①【はじめに】

“常に利用者と一緒に”

106歳のA様らしさを考え、これからも  
元気に過ごしていただけるよう、今までの  
支援を振り返り、新たな支援策を考えた。

## ②【事例紹介】

A様106歳 要介護4  
車椅子使用  
80歳まで、自営のガソ  
リンスタンドで働かれていた。  
世話好きで90歳までボランティアをされ  
ていた。



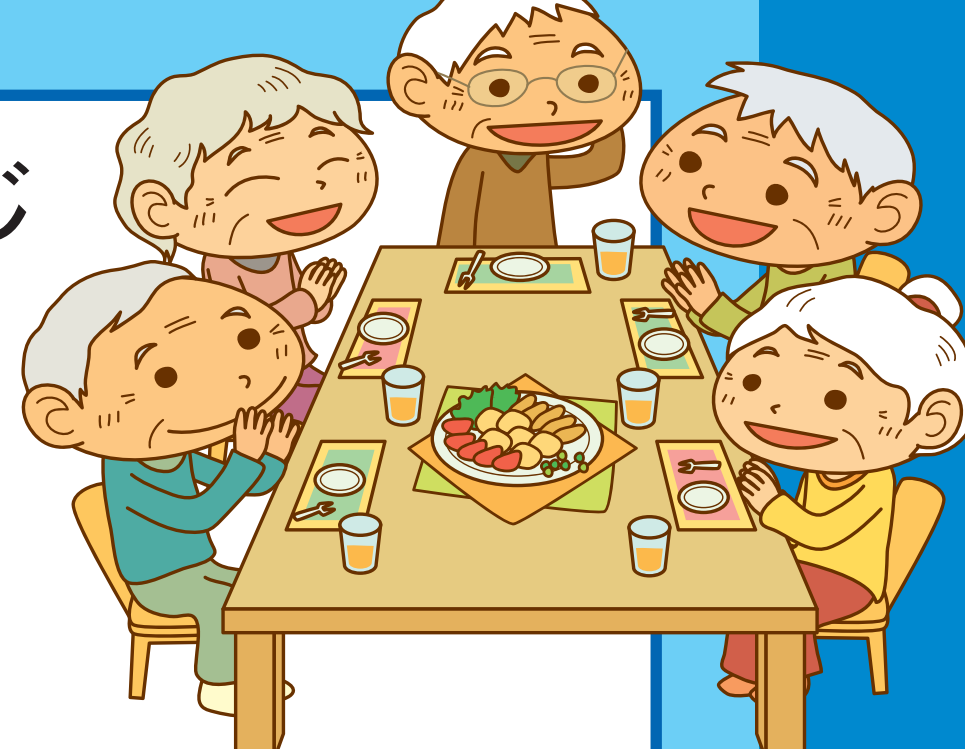
## ③【具体的な取り組み】

取り組み前の様子

新たな支援策

(食事)  
摂取量にむらがある。

他の利用者と同じ  
**食事環境**や  
楽しみのある  
**摂取環境**を作る。



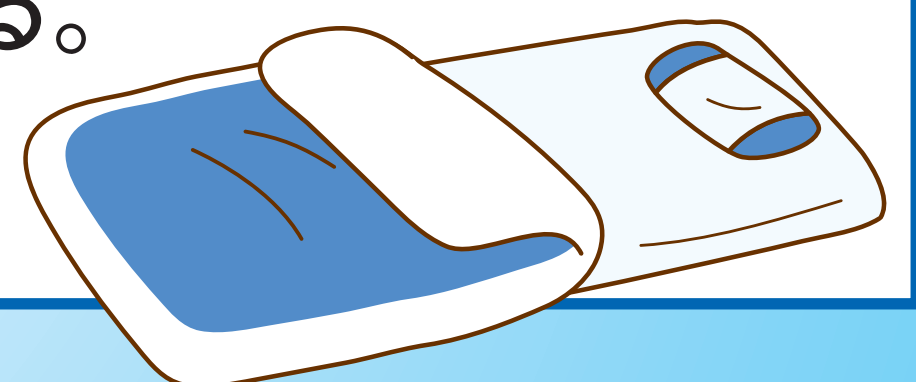
(排泄)  
リハビリパンツ使用。

日中はほとんど  
失敗がないので  
**布パンツ**の方がい  
いのではないかと



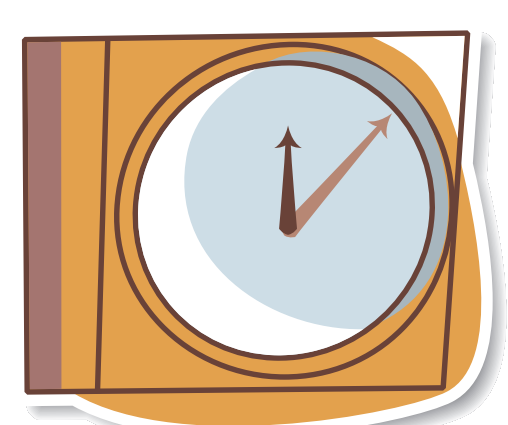
(起床)  
起床時寝ているのを起  
こされると機嫌が悪い。

他の入居者や食事に合わすの  
ではなく、**A様のタイミング**に合  
わせて起きる。



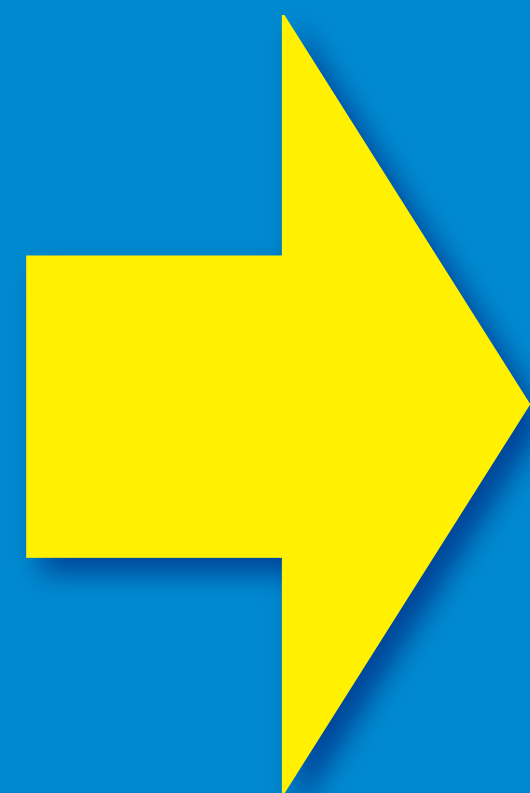
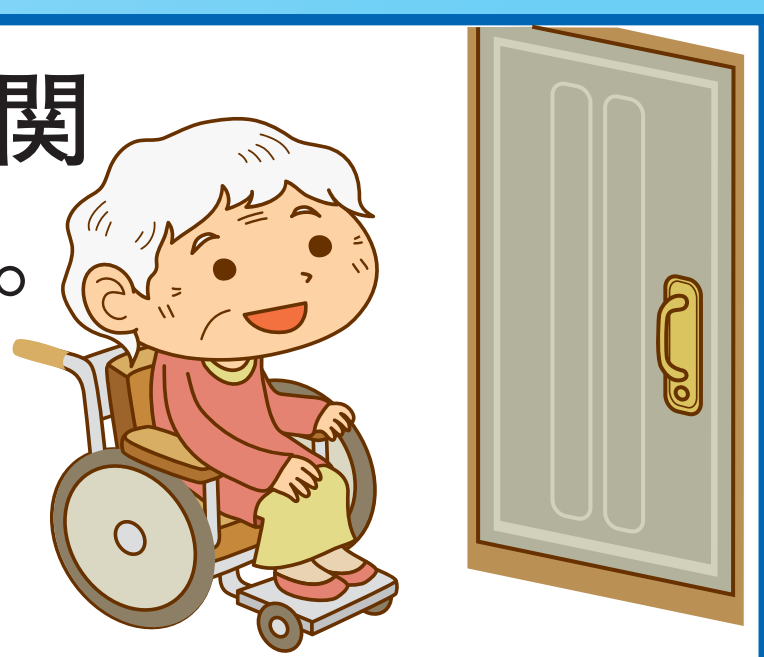
(昼寝)  
リビングでウトウトする  
ことが多くなっている。

疲れが溜まって  
いるのでは？  
様子を見て**昼寝**  
を行う。



(若返り)  
年に数回不定期に精神  
的、身体的に若返りが  
見られる。

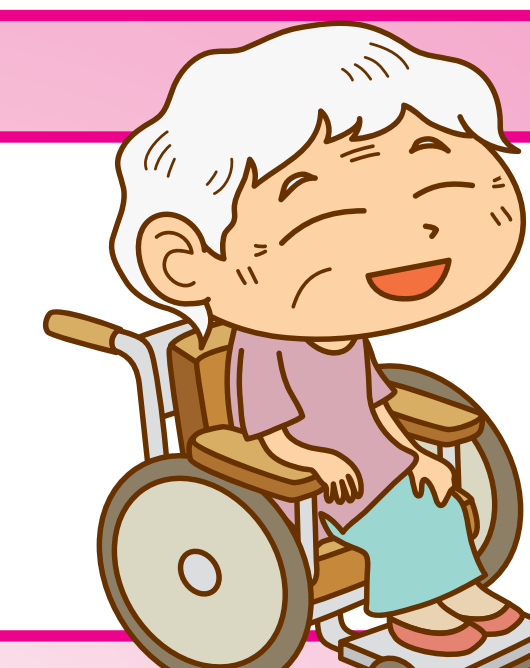
若返り時、玄関  
へ良く行かれる。  
**家に帰りたい**  
のではないかと



## ④【活動の成果と評価】

(食事)  
他の利用者と同じものや1番に配膳することで満  
足そうにテーブルに着かれる。カロリーメイト飲料  
が主流であるが、ほとんど体調を崩さず元気に過  
ごされる。

(排泄)  
布パンツへの変更後も、  
ほとんど失敗なし。



(起床)  
A様のタイミングに合わせて起きてい  
ただくことで機嫌よく起き、トイレ  
誘導や更衣もスムーズに行える。



(昼寝)  
午後に昼寝をすることで疲れがとれ、すっきりと  
した顔で夕方まで機嫌よく過ごされる。

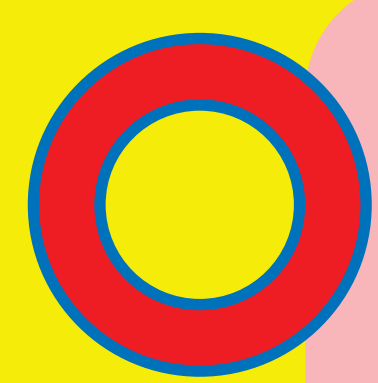


(若返り)  
心身ともに元気だから外出ができた。

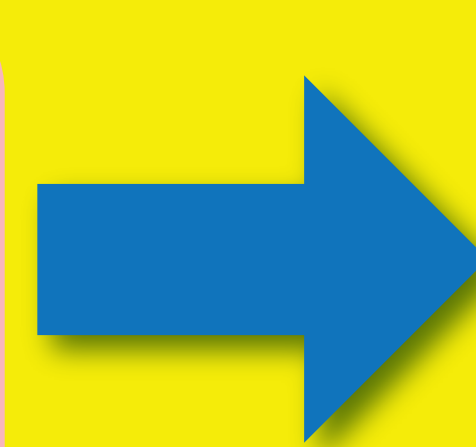


## ⑤【考察・まとめ】

A様らしい生活が  
維持できるように  
支援しよう！



A様にとって  
嬉しいことは？  
幸せなことは？



その人らしい生活



106歳だから、  
これはダメ  
こうしないと。

スタッフは入居者の笑顔に癒され元気をも  
らっている。だから介護に追われているスタッ  
フではなく、**一緒に時間を共有するスタッフ**  
でありたい！